

予報期間 7月8日から7月14日まで

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 台風第3号と第4号については最新の台風予報を参照。
- 10日から11日にかけて、高気圧がオホーツク海から千島の東に移動する。
- 12日にかけて、高気圧が北日本から黄海付近を覆い、日本の南から東シナ海にかけて気圧の谷となる日が続く。
- 13日から14日にかけて、気圧の谷が日本付近に進む。

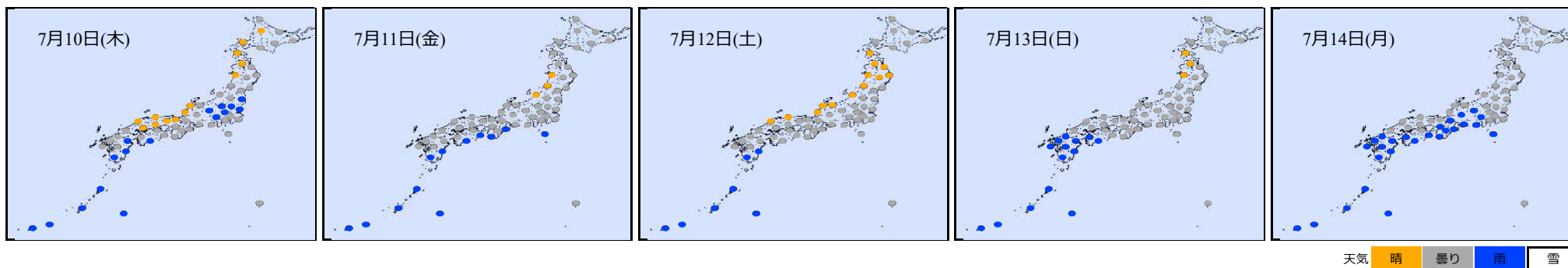
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 北日本から西日本にかけては、気温がかなり高くなり、最高気温が35度以上となる所がある見込み。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

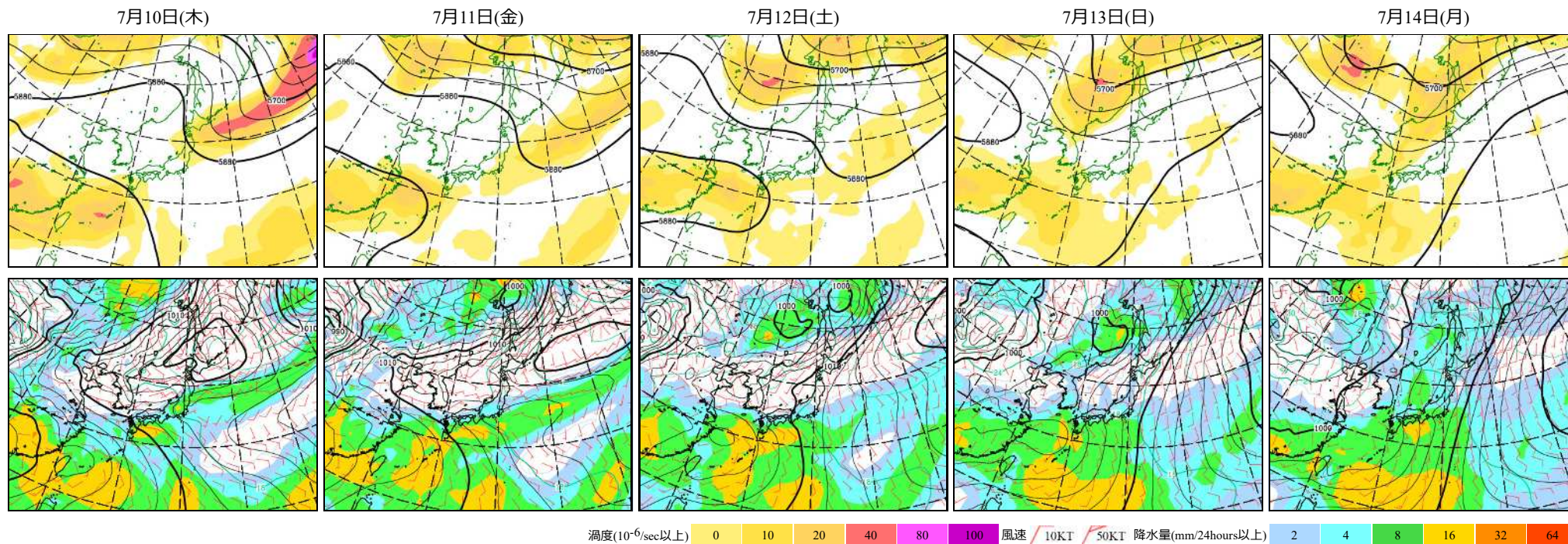
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

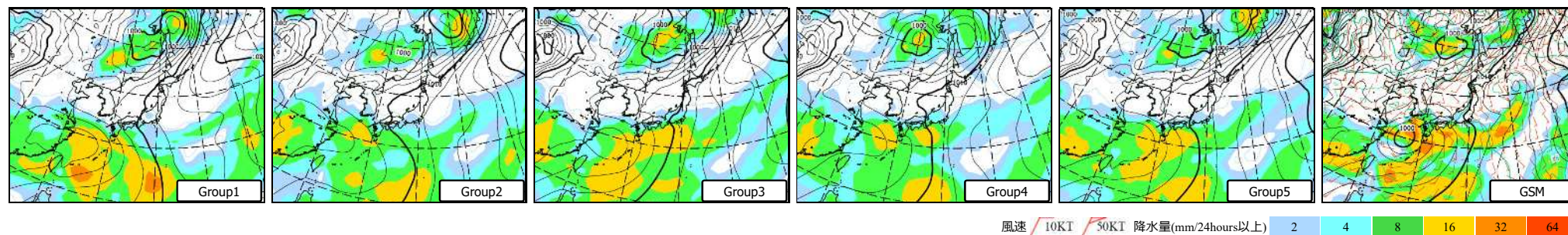


- 北日本は、晴れる所もあるが、雲が広がりやすい。
- 東日本と西日本は、雲が広がりやすく、雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆7月12日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、10日はアムール川下流付近のリッジが強まり、その後の東進がやや早くなった。地上の気圧配置の予想は、大きな初期値変わりはない。
- GSM、ECM、NCEPは11日以降は日本の東を寒冷渦がゆっくり進む予想になった。13日から14日にかけて、日本モデルとECMは深いトラフが西日本に近づく予想となっている。
- 12日は、東シナ海に熱帯じょう乱を予想するモデルもある。ENSは、熱帯じょう乱を予想するメンバーが多いが、予想位置は日本の南から東シナ海まで幅広く、メンバー間のバラつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。